

ARIBの動き

第21回PHS MoU総会が開催される

第21回PHS MoU総会が1月30日からHoliday Inn Zhuhai (中国、珠海) において、中国、台湾、米国、日本等の国、地域から76名の出席のもとに開催されました。

1月30日には各ワーキンググループの活動報告を行いました。1月31日には総会において事業計画等の審議及び講演が行われ、午後のセミナーでは新技術の紹介や魅力ある技術の情報交換がなされました。また、2月1日には、PHSのロードマップと展開についてフリーディスカッションが行われ、3日間を通して参加者は相互交流を深めました。

以下にその概要を紹介します。

- (1) ワーキンググループ会合 (1月30日) : 各ワーキンググループ (Optimization WG、Promotion WG、Technical WG、Business WG及びNext Generation WG) の各会合が開かれ、新しい世代のPHSについての活動成果及び計画が確認されました。
- (2) 総会 (1月31日 午前) : Mark Tian氏による開会挨拶に引き続き、来賓の中からBai Mei氏 (China Telecom 珠海分公司) から祝辞をいただき、Pat Chan氏 (UTStarcom Inc.) から特別講演をいただきました。総会では、活動報告、事業計画、新加入メンバー等が承認されました。
- (3) テクニカルセミナー (1月31日 午後) : BDA China、NetIndex Inc.、ウィルコム及びAtherosの4社から講演があり、活発に質疑応答が行われました。

なお、詳細は、後日、PHS MoUグループのメールマガジン及びPHS MoUグループのホームページ<<http://www.phsmou.org/>>に掲載されます。

(注：PHS MoUグループはPHSの海外への普及促進支援のための任意団体で、現在は加盟メンバー78社です。ARIBはPHS MoUの事務局を務めています。)



第21回PHS MoU総会の様子



Bai Mei氏の祝辞

「電波の安全性に関する講演会」が開催される  
～安全で安心な電波利用環境に向けて～

去る2月6日に総務省関東総合通信局及び当会の主催による「電波の安全性に関する講演会」を東京グリーンパレス（千代田区二番町）において開催しました。

本講演会は、電波の安全性に関する基礎知識及び最新の研究成果を政策担当者、研究者等から講演いただくことにより一般の方々に周知するために、各地域の総合通信局との共催で開催しており、本年度は全国で10地域で講演会を開催しています。

今回の講演会では、総務省関東総合通信局長の江寄正邦様から主催者挨拶をいただいた後、3名の講師の方から電波利用環境の整備のための施策及び電波の安全性について、行政、工学及び医学の立場から、一般の方に大変わかりやすいご講演をいただきました。

定員の200名を越えた申し込みがあり、当日は会場の定員いっぱいのご来場があり、行政に対する質問や研究内容に対する質問等、質疑応答が活発に取り交わされました。



関東総合通信局長 江寄正邦様の  
主催者挨拶の様子

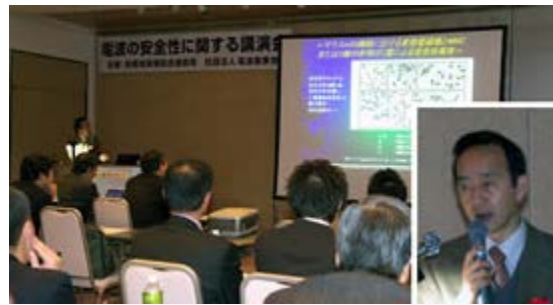


総務省電波環境課長 杉浦誠様の  
講演の様子

【安心して電波を利用するために】



情報通信研究機構 渡辺聡一様の  
講演の様子  
【電磁防護指針値の根拠と評価方法】



弘前大学 宮越順二様の講演の様子  
【電波の健康影響  
~研究の現状と国際動向~】

## アルゼンチンに対する地上デジタルテレビ放送の普及活動について

アルゼンチン政府が2006年内に規格を決定する方針を打ち出したため、総務省、DiBEG関係者によりオールジャパンの派遣団を構成して昨年12月13日から12月30日までアルゼンチンを訪問し、日本方式に関するデモンストレーションを行い、その優位性を示し、方式採用に向けた働きかけを行いました。活動の概要は以下のとおりであり、効果的な活動を行うことができました。

### 1 アルゼンチン政府等関係者

次のとおり、アルゼンチン政府高官及び関係者並びに周辺諸国の関係者に対してデモを実施しました。

- (1) デビド企画公共事業大臣、サラス通信庁長官、バラタ次官等政府関係者
- (2) アルゼンチン国内のATA（放送事業者団体）、CAPER(電気電子工業会)
- (3) チリの民放（チャンネル13）、ウルグアイ電電公社（ANTELDATA）

### 2 デモ内容

ブエノスアイレス市内にあるThe Old Building(Ch9の送信所)から試験放送電波を発射し、次のとおりデモを行いました。

- (1) 日本方式について分かり易く説明したビデオ（現地で作成）の視聴
- (2) 液晶及びプラズマによる大型固定HDTV受信機、STBによる受信
- (3) ワンセグ携帯電話、DVDプレーヤ、カーナビ等による携帯受信
- (4) 車載チューナを搭載したワゴン車によりHDTVとワンセグの移動体受信
- (5) 日本方式の特徴であるセグメント構造や3方式の比較について説明

### 3 その他

デモをご覧になり、担当大臣であるデビド大臣は、テレビ取材に対して“（デジタル放送の選定において）政府は情報の民主化と機動性を優先するだろう”“デジタルテレビによっていかに国民生活の質の向上が可能かという点が考慮される”と回答されました。

「超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム」の設立に向けて  
～会員募集～

遠く離れた場所からでも同じ空間を共有でき、お互いにその場にいるような自然でリアルなコミュニケーションの実現は、誰もが心豊かで便利に生活できるようにするために、ますます重要になると考えられます。

このような「超臨場感コミュニケーション技術」は、「超高精細・立体映像」、「高臨場感音場再生」、「触覚・嗅覚を含めた五感通信」などの技術からなり、それらの研究開発においては、撮像・入力、表示・再生、画像・音声処理、伝送・通信、コンテンツ制作、ヒューマンインターフェース、認知メカニズムなど多くの異分野の協調が不可欠です。そのため、産業界、大学、国など関係機関が結集し、標準化を念頭において推進することが重要となります。そこでNICT及び関連分野の企業、有識者、総務省は、産学官連携による研究開発・実証実験・標準化等の効率的な推進、研究成果の実社会への積極的な展開を図ることを目的とした「超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム」の設立を企画いたしました。

「超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム」（発起人代表：東京大学教授 原島 博）の平成19年3月7日(水)の設立に向けて会員を募集しています。

本フォーラムに入会ご希望の方は、下記の本フォーラムのホームページにアクセスしていただき、準備会事務局（(財)テレコム先端技術研究支援センター内）までお申し込み下さい。

<[http://www.scat.or.jp/urcf/urcf\\_kickoff.htm](http://www.scat.or.jp/urcf/urcf_kickoff.htm)>

超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム  
Ultra-Realistic Communications Forum

### 目的

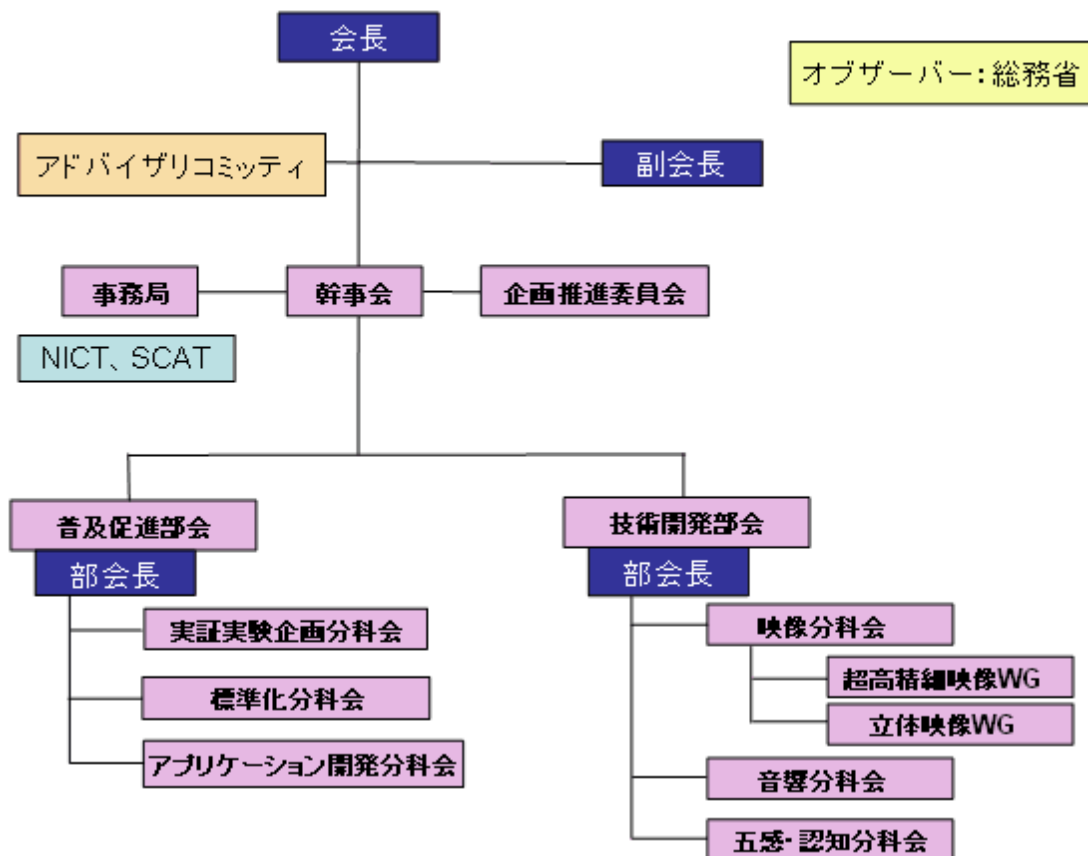
- ・ 超高精細・立体映像、高臨場感音場再生、五感通信技術などの進歩発展に貢献
- ・ 産学官連携による研究開発・実証実験・標準化等の積極的で効率的な推進
- ・ 世界をリードする超臨場感コミュニケーションの実現

### 活動概要

- 普及促進部会
  - ・ 実証実験の実施
  - ・ 標準化の推進
  - ・ アプリケーション開発
  - ・ 啓発・普及の促進

- 研究開発部会
  - ・ 超高精細・立体映像の研究開発を促進
  - ・ 高臨場感音場再生の研究開発を促進
  - ・ 触覚・嗅覚を含めた五感通信の研究開発を促進

# 超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム体制(案)



## 編集後記

ARIBに喫煙室ができ、1月29日から喫煙室以外は全面禁煙となりました。

従来はトイレの入り口近くに喫煙所があり、トイレに行く際には喫煙所の脇を通ることが必要なため、たばこをすわない人はかなり迷惑していたようです。

喫煙室をつくる計画は、昨年の14階から11階への引っ越しの際のレイアウト検討時にもありましたが、個人ロッカーの廃止案等と抱き合わせであったため、いったんはボツになったようです。その後、「11階の方が14階よりも煙が停滞してけむたい。」という意見が出たため、喫煙室をつくることになったようです。

編集子はといえば、約14年前の成人病検診の際に約2日間の禁煙を強制されたのがきっかけでたばこをやめました。煙への耐性は残っているようで、従来の喫煙所の脇を通るのも平気でした。しかし、1本すってしまえば元の木阿弥でたばこをすいはじめるような気がするので、今回の喫煙所の設置は大歓迎です。

(編集子:PAO)